

持続可能な観光地づくりへ

JTB交流文化賞 受賞地域のいま—2014

—第8回(2012年度)最優秀賞

一本杉町町会(石川県七尾市)

「花嫁のれんのまち」のと・七尾 一本杉通り
「語り部処」でふれあい 「茶の間の観光」

石川県七尾市には、幕末から庶民の暮らしの中に溶け込んできた婚礼の風習がある。花嫁は、婚礼の時に「のれん」を持参し、婚家との縁の第一歩を踏み出す。一本杉通りの「花嫁のれん」は、この風習をモチーフに2004年にスタートした商店街活性化の取り組みだ。店々がのれんを飾って見せるイベント「花嫁のれん」と、店舗内でのれんの由来や家業をはじめ地域の生活文化を語る「語り部処」の二本立て。花嫁の

れんは毎春の期間限定だが、語り部処は年間を通じて行われている。選定では「加賀友禅と仏間の生活文化そのものが、自分たちの文化財という地域の誇りが感じられた。ノスタルジックな点がむしろ新しい」と評価された。当初は50枚ほどを飾る規模だったが、11年目の今春は170枚を数えた。展示期間中の交流人口は10万人を超え、語り部処と相まって交流文化賞にふさわしい進化を遂げている。

地域に根ざした持続的な交流の創造と、各地域の魅力を創出し、地域の活性化に寄与することを目的とする「JTB交流文化賞」。今年で10回を迎えるが、これまでの受賞地域はさながら地域活性化に向けて取り組みを進めている。第7回優秀賞の大阪モノづくり観光推進協会(大阪府東大阪市)と第8回最優秀賞の一本杉町町会(石川県七尾市)の今をレポートする。

—第7回(2011年度)優秀賞

大阪モノづくり観光推進協会

若者に伝えたいんや！
町工場のおちゃんが熱く語る“モノづくりの心”

東大阪は、旧・河内の国の中にあり「モノづくり」の町として知られる。東大寺の大仏を作ったのも河内鑄物師(かわちいもじ)といわれる職業集団で、その伝統は脈々と現在まで伝えられている。しかし、最盛期には1万2000社あった中小企業は今や6000社。このままではモノづくりの灯が消えるという危機感から、モノづくりを通して、子供たちに、その楽しさ、大切さ、働くことの意義を、町工場の職人がこれまでの生き

様とともに直接語りかける独自の「モノづくり観光」プログラムを構築した。「夢を持つこと、挑戦すること」をテーマとしてホテルセイリウが提唱し、町工場が賛同して始まったこのプログラムは、教育旅行で訪れた多感な生徒たちの心を揺さぶった。一方、職人にも、生徒たちとの交流により、教える喜びという新たなモチベーションが加わり、地域に少しずつ活気が出てきている。



試験的に公開している花嫁のれん館の展示



「町づくりでは、かつての繁栄ぶりを残した店舗や邸宅の登録有形文化財化で5件が登録された。一方の活性化策では、交流人口の拡大に向け「花嫁のれん」のイベント化に力を入れている。花嫁が実家の家紋が入ったのれんを持参し、嫁ぎ先の仏間の入り口にかけ、それを潜って先祖の仏壇に参拝してから結婚式が始まる。旧加賀藩治世の幕末に始まり、庶民の婚礼風習として受け継がれてきた。一本杉通りの振興会(鳥居正会長)は、「観光客向けだけでなく、有形文化財指定の二軒油蔵造店

交流文化を顕現する「語り部処」

石川県七尾市では、メインストリートの御蔵川通りに接する全長450mの商店街「一本杉通り」が、まち中観光の舞台になっている。毎年4月29日から5月1日の3日間、5月2日の第2日曜日、まで開催する「(でか山)が繰り広げられる。

花嫁のれんの話だけでなく各店の稼業や諸々の話に花が咲く語り部



も大きなインパクトを与えた。例えは、11年にJATAのツアーオプザイヤーで国内旅行部門グランプリと観光庁長官賞を受賞したJTBの団体向け「地恵のたび」でも花嫁のれんが商品化された。「語り部の話を聞きながら散策する」と時間は必要ながら散策旅行での体験学習にも効果的だ(JTB国内旅行企画中部事務局・浅井学地域統括部長)と旅行会社の期待も大きい。

一方、いつ訪ねても花嫁のれんが見られる。あるいは花嫁のれんを潜る体験をしたい。などの観光客の思いとともに、旅行会社もそれらがあれば商品化しやすい。だが、安直な展示や体験は地域文化の精神性を損ね、形骸化した展示に陥る危険もある。そのジレンマ解消は、花嫁のれんの両輪、展示

交流文化賞受賞の声

受賞は、商店会だけでなく地域の人々と一緒に継続できた10年間が評価されたことと受けとめている。来訪客が展示イベントを「すごい



地元の人々も活動を評価

です」と言ってくれるだけでなく、七尾の人々が私たちの活動を評価してくれたいことがうれしい。地元においても花嫁のれんと縁の薄かった若い男性や、観光に興味を持っていなかった人々にとって、のれんは観光への関心をもつきっかけになった。受賞による観光客の増加が

「尖った」プランで次のステップへ

「いかに良い物を作り、日本のために役に立つ物を作るか。この基本的なことを忘れてはならない。船舶バブルなどの瞬間的な盛り上がりは、モノづくりにスポットを当てた5人の中小企業。79歳の上田富雄社長は、父親から何回も言われ続けたというこの教訓を自分にも言い聞かせるように語る。

東大阪の「モノづくり観光」プログラムでは、上田社長をはじめ



整頓された工場内できびきびと作業する上田合金の従業員

たのは2008年、JTBはこのときから深く関わっている。大阪モノづくり観光推進協会の足立克己専務理事・事務局長は「JTB西日本の社長も連日組織に力をつけている。行政の組織ではなかった。行政の組織ではない純民間の組織にJTBが加わったのは珍しい。よく踏み切った」と振り返る。

入による経済効果をもたらし、企業や自治体の視覚も増えている。地域の新たな強みになっている。(高橋広行JTB社長)

今、次のステップを踏み出す時期にきている。町工場のおっちゃんたちが「自分たちの思いを若者たちに伝えたい」と始まったプログラムだけに参加料金は最低限に設定。町工場は小さいから1回60分の見学、体験には20人ぐらいしか参加できず、利益とは程遠い。企業研修での利用も少なくないが、すべて同一料金という。足立専務によれば、町工場は大小あるが平均の年商は5億円ぐらいで、1時間に25万円を稼ぐという試算。見学時間中は作業が止まるわけだから、その時間の利益が消える。上田合金では修学旅行シーズンの半年間で約50校を受け入れており、「上田社長には頭が

下がる」と足立専務。それでも「子供たちに何かを感じてもらえる計画だ。その先に見据えているのは、インド市場の開拓だ。『モノづくりは日本文化』というコンセプトで特に、日本文化に関心の高い欧米の人々をターゲットにして、モノづくりの原点を案内する仕組みの構築を目指す。地元の人を分けて、企業や教職向けの「尖った研修プラン」を作ること。第一弾として進めている企画は、考古学の専門家から話を聞いたうえで、鑄物の技術で銅鑼や銅剣、銅鏡の復元を目指している上田合金。足立専務は「町工場のおっちゃんに鑄物の技術を受けて銅鑼を作るといふプラン。価格は20万円ぐらいを見込む。旅行商品は売って販売するために、地域限定旅行登録も8月19日に申請。9月には登録を完了し、この組織でしたい」と考えている。

交流文化賞受賞の声



JTBの力借り情報発信

分たちの営業担当者として、地域を売ってくれる。経済的な換算をしたら、何百万、何千万にもなる。私たちが単体でやっていたら、これまでの広がりはなかっただろう。だが、JTBとの関係はどちらが川上でも川下でもなく、常にパレレルだ。そう思っているに協力してあげれば絶対にいい結果が出る。

第10回 JTB交流文化賞 募集中!

締め切り
2014年
9月15日
(月・祝)郵送またはインターネット*で
ご応募いただけます。
詳しくはホームページを
ご覧ください。

※交流文化体験賞ジュニア部門は郵送のみ受付

JTB交流文化賞

検索



交流文化賞(組織・団体対象)

JTBは、地域の観光交流・地域活性化の取り組みを
支援・推進いたします。

●「わがまち」に誇りを持つために

地域活性化の活動は、従来から地域に生きている自然や文化、歴史などの価値を損なうことなく、地域が持つ豊富な知恵や特性を存分に活かしたアイデアを盛り込むことが重要で、等身大のまちの姿をのびやかに伝えながら、まち全体でもてなす工夫を見つけた時、旅行者に新鮮な感動を与えられ、地域の皆様が「わがまち」に誇りを感じられることでしょう。そんな地域の取り組みを教えてください。

募集内容

名称	交流文化賞	応募様式	指定の応募用紙
対象	組織・団体		
テーマ	国内外を問わず、地域として、地域固有の魅力の創出・商業の創造、地域活性化、双方向の文化交流など、オリジナル性を活かした「持続可能な観光」の取り組み事例を募集します。 ※前回応募いただいた取り組み事例も応募いただけます。	最優秀賞 1件 賞金100万円 優秀賞 2件 賞金50万円	

交流文化
体験賞

目で見るだけでは物足りない。五感で感じて触れあった旅の体験ほど、心に深く刻まれて人生での大きな糧となるでしょう。著名な観光地を訪れるだけでなく、自らが見つけて、知って、交流するという能動的な旅のスタイル。交流文化体験賞では、旅を楽しむあなたの、人と人とのつながりやふれ合いから生まれたエピソードを募集しています。

一般部門 (一般個人対象)
ジュニア部門 (小学生・中学生対象)
募集内容、応募要項など詳しくはホームページをご覧ください。

お問い合わせ先

JTB交流文化賞事務局

(株式会社JTB総合研究所内)

TEL.03(3525)4559

(10:00~17:30 土・日・祝日休み)

FAX.03(3525)4565

e-mail: jtb-kbunkasho@tourism.jp

第10回 JTB交流文化賞選考委員

政所 利子 (株) 代表取締役
松平 定知 京都造形芸術大学 教授
見城 美枝子 青森大学 教授
久保田 雅 (株) ジェンティリー 常務取締役

安島 博幸 立教大学 観光学部 教授
森 圭子 作家

見城 美枝子 青森大学 教授
久保田 雅 (株) ジェンティリー 常務取締役